

私たちが

中学生に伝えたい福祉の魅力

福祉施設における中学生の職場体験 受入れハンドブック



人に喜ばれることに
やりがいを感じる

誰かの生活を支えたい

相手のことを知ったり
人と関わることが好き

誰かの
成長や変化を喜べる

将来 × ? = ✨! ✨

人を幸せにしたい

答えのないことにも
とことん取り組みたい

毎日
新しい発見や挑戦がしたい

ユースケ



はじめに

高校生が専門学校や大学進学時に文学系、工学系、商学系、経済学系、法学系などの分野を選択しても、周囲の同級生から特に驚かれることはないと思います。ところが、福祉・介護系の進路を選択した際には「え?!すごいね」「立派だね。えらいねえ」などと驚かれることが度々あります。このことから「福祉・介護」が他の進路に比べて特別な人たちが進む分野として認識されている状況がうかがえます。

しかし、福祉分野で活躍されている現場のみなさんは、このことを当然の結果であると納得できるでしょうか？社会の中で生活すれば誰もが関わるであろう福祉です。それは、それほどまでに変わっていて、普通の人には選択しない、魅力のない進路先なのでしょうか？私は決してそうではないと確信しています。

しかしながら、上記の話は事実です。もし、「福祉の魅力」を伝えきれていないのならば、それは福祉現場(福祉業界)の責任と課題です。一方、福祉の魅力をもっと確実に伝えられるのは、他の誰でもなく福祉現場のみなさんです。

いま、キャリア教育の推進のため、小・中・高校生が福祉分野にも職場体験に来ています。これこそ「福祉」が魅力あるものであることを伝える絶好の機会のひとつと位置付け、東京都社会福祉協議会では「福祉の魅力可視化プロジェクト」を立ち上げ、福祉施設が職場体験受入れの際に使える各種ツールの開発を検討しました。そして、1年半の取組みを通じて完成したのが、このハンドブック『**私たちが中学生に伝えたい福祉の魅力**』です。

一例ですが、本プロジェクトで提案したツールを使っていたいただいたモニター施設では、中学生から「障がいへの偏見がなくなった。障がいを持っているからできないのではなく、障がいのあるなしに関わらず、人には得意不得意がある」という気づきがあったとの報告を頂いています。私たちが伝えたい大切な思いや価値観が獲得されていることがわかります。これまで以上に、福祉の魅力が伝えられる職場体験を企画して「福祉は人とかわかれて魅力ある仕事」であることを伝えていきましょう。



東京都社会福祉協議会「福祉の魅力可視化プロジェクト」座長
田園調布学園大学人間福祉学部 学部長・社会福祉学科 教授
村井 祐一

もくじ

ハンドブック「私たちが中学生に伝えたい福祉の魅力」とは	2
知ろう！中学生の職場体験	3
中学校における職場体験学習実践例	3
中学生の学びのポイントは？	4
中学生の学びのポイントをふまえた福祉施設ならではの関わり	6
福祉職場に関心を持ったきっかけ	8
伝える！福祉の魅力が伝わる職場体験	9
職場体験の3つのステージ	10
I 事前学習期間	12
II 職場体験受入れ期間	14
III 事後学習・ふりかえり期間	17
現場の職員の生の声で、「福祉の仕事の価値観」を伝える	20
東京の福祉施設初任者職員が福祉に関心を持ったきっかけ	22
中学生むけの資料	23
福祉の仕事ってどんな種類(資格)があるの？	24
社会福祉施設ってどんな種類があるの？	26
福祉職場で働き続ける10の魅力	28
ボランティア活動に出かけてみよう！	30
モニター施設レポート	31
特別養護老人ホーム 博水の郷	32
よしの保育園	34
大田区立くすのき園	36

福祉施設が中学生の職場体験を受入れる際に役立てていただけるように作成しました。
次の4つの特徴のあるハンドブックです。

なるほど！体験したことを「言葉」にすると、
自分なりに感じた「福祉の魅力」が形になるんだね。



特徴1

福祉施設が
中学生に対して、福祉の魅力を
情報発信できるハンドブック

特徴2

中学生の教育課程における
「キャリア教育」をふまえた体験を
提供できるハンドブック

特徴3

職場体験に3つのステージを
設定することで
体験の効果を高められるハンドブック

特徴4

すぐに使えてアレンジできる
「4つのツール」で
体験を言語化できるハンドブック

中学生が施設に来る前後にどんな学習をしているのかを
知っておこう！



中学校における職場体験学習実践例

		学習内容
1年生	事前学習	「将来の夢や職業、働くことなどを通して自分の生き方を考える」 ・働くことの意義を考えよう ・身近な職業を調べよう ・自分の適性を考えよう など
		「職場体験の目的を明確にする」 ・職場体験で何を学ぶか？ ・自分にとっての課題は？ ・職場体験での自分の目標は？
2年生	直前指導	・体験希望調査 ・体験先の選択決定 ・質問事項などの検討 ・事前訪問による体験内容の確認 (自己紹介、体験時間、仕事内容、持ち物、服装など) ・安全や緊急対応、社会性やマナー
	職場体験	・自己紹介、あいさつ、注意事項の確認 ・施設などの説明、見学 ・働くことを実感しよう(職業実習) ・体験先や仕事のことを質問しよう ・職場の方がなぜこの仕事についてたかを質問しよう ・職場の方の生き方や中学生時代のことを質問しよう ・自分の将来のことを話してみよう ・ノート・日誌への記録 ・体験先からの評価
	事後指導	・職場体験の記録のまとめ ・自己評価、教員の評価など多様な評価 ・礼状の作成 ・事後訪問 ・職場体験発表会
3年生	事後学習	「将来の進路に向けた主体的な学習、職場体験の経験をもとに 自分の進路を考えて決定していく」 ・自分の適性を活かした進路 ・卒業後に学ばべきこと ・自分の将来のデザインと自分にあった進路先



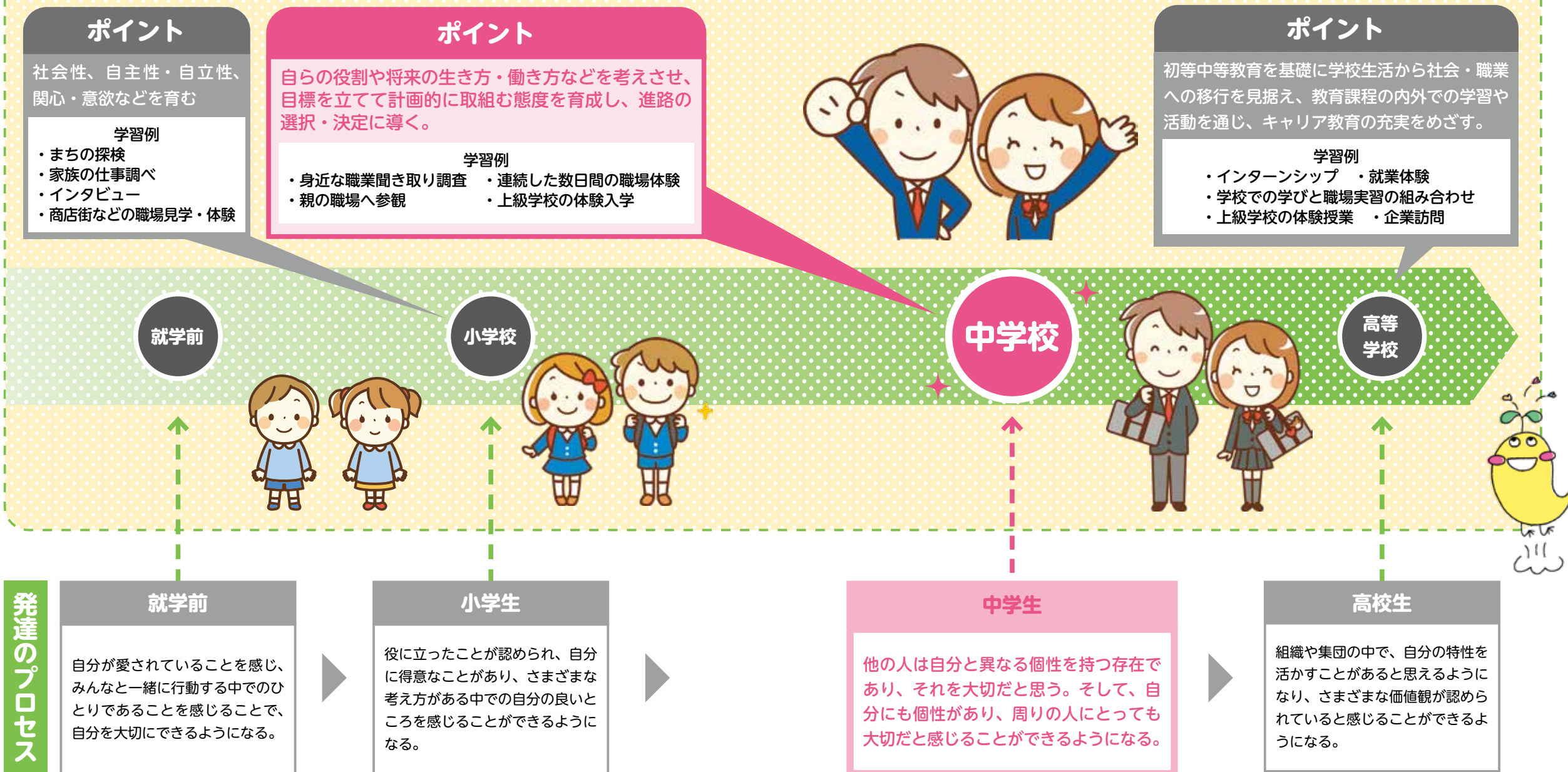
福祉施設で職場体験

参考資料：文部科学省ホームページ「中学校職場体験ガイド」より

中学生の学びのポイントは？

「中学生の職場体験」は、文部科学省により「生徒が事業所などの職場で働くことを通じて、職業や仕事の実際について体験したり、働く人々と接したりする学習活動」と位置付けられています。近年、小学校、中学校、高等学校を通じて「キャリア教育」を推進していくことが重要とされ、「中学生の職場体験」もその一環として行われています。

キャリア教育のプロセス



キャリア教育とは…
子どもたちが「生きる力」を身につけ、社会人として自立していくことができるための教育

中学生の学びのポイントをふまえた
福祉施設ならではの関わり

職業的発達に必要な4つの能力



中学生の育ちに期待される具体的な諸能力	
人間関係形成能力	自他の理解能力 コミュニケーション能力
情報活用能力	情報収集・探索能力 職業理解能力
将来設計能力	役割把握・認識能力 計画実行能力
意思決定能力	選択能力 課題解決能力

福祉施設ならではの体験のポイント	職員の関わりのポイント
<ul style="list-style-type: none"> ●自分らしさが受け止められることを実感し、自己肯定感を確かめる。 ●利用者や職員との関わりから、他者の良さや感情を理解し、尊重する気持ちを習得する。 ●様々な人の価値観や生き方に触れる。 ●チームを組んで仕事する姿を見せ体験の機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『「職員のプロの姿」「利用者の強みやパワー」を〇個見つけてみよう』など対象者の強みやパワー、課題にも目をむける場面を与える。 ・利用者と直接かかわることで体験前のイメージとのギャップに気づく。 ・利用者から感謝を受ける場面を設定。
<ul style="list-style-type: none"> ●中学生にも役割や活躍の場を設け、参加や提案する機会を意識し、受け身ではない体験をめざす。 ●職員の姿や行動から、その意味を考え、深めてもらう。 ●言葉を引き出す声かけなどを行い、気づきや想いの言語化を意識する。 ●職員の生の声で、福祉の仕事の「価値観」を伝える。 ●社会的課題にもふれ、それを解決していくための福祉の仕事を紹介し、必要な資格にもふれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の考えや行動が肯定される体験、楽しい体験、感動体験の場面設定。 ・初めて目にした姿や、「なぜそうするのか」疑問に思った行動や場面をあげてもらう。 ・中学生の気づきや想いを言語化する。 ・職員の想いや職業観を伝え、実感のある職業理解を促す。 ・福祉の社会的課題と仕事、資格にふれる。
<ul style="list-style-type: none"> ●職場体験を通しての中学生の変化について、利用者や職員に与えた影響も交えながら職員が言語化し、フィードバックする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の行動や表情の変化を言語化しフィードバックする。 ・中学生に考えや気持ちの変化を言語化してもらい、報告や発表をもらった内容を肯定的に受け止める。(理解者、共感者として成長を見届ける)。 ・中学生がかかわった利用者の反応や変化を言語化し、中学生に伝える。 ・良い気づきの視点や、福祉職としてのセンスを感じる点などを発見し伝える。 ・職員から感謝される。

参考資料：小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引－児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために－(平成18年11月)

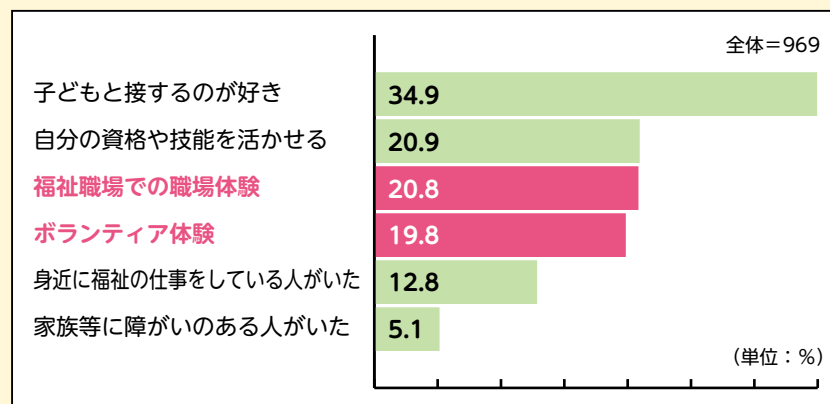
福祉施設に最近就職した職員にたずねたら、福祉に関心を持ったきっかけの上位に「職場体験」があったんだって！



職場体験の『3つのステージ』を把握し、ツールを使いながら「福祉の魅力」を伝える受入れを考えよう

東京の社会福祉施設の初任者職員が福祉職場に関心を持ったきっかけの上位に「職場体験」「ボランティア体験」があげられています。

■福祉職場に関心を持ったきっかけ[初任職員向け調査]



東京の社会福祉施設で、「毎年、中学生を受入れている福祉施設」は56.0%です。受入れ施設が7割、8割を超えている施設種別もあります。

参考資料：平成28年度東社協調査「質と量の好循環をめざした福祉人材の確保・育成・定着に関する調査」より

福祉施設における「中学生の職場体験」の受入れの平均は…

- ・ 1施設あたり2校の中学2年生
- ・ 1校あたり3人を3日間受入れ
- ・ 1日の平均的な受入れ時間は6時間

参考資料：平成29年度東社協「福祉施設における次世代に対する理解促進に関する調査」より

I 事前学習期間

この仕事はどんな仕事だと思いますか？

職場体験前の考え	職場体験後の考え
<input type="text"/>	<input type="text"/>

▶考えが変わるきっかけになった体験や場面はどのようなものですか？

II 職場体験受入れ期間

職員の「プロの姿」を見つけよう！

●あなたが見つけた職員の「プロの姿」 ●その理由は何ですか？

<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>

職員コメント

III 事後学習・ふりかえり期間

修了証

____ 殿

____ 賞

あなたは、私たちの職場での職場体験を通して上記の賞のとおり活躍をいただいたことを証します。

____年 ____月 ____日

施設名 _____ 印



職場体験の
3つのステージ

ステージ

I 事前学習期間

体験前のイメージを
形にしておく

II 職場体験受入れ期間

主体的に魅力を
発見してもらう

III 事後学習・振り返り期間

フィードバックを
通じて言語化

体験を通して
身につけたいこと

- 肯定的な原体験*として、「福祉分野」や「福祉の仕事」に実感として肯定的なイメージを持つ

*その人に何らかの形で残り続ける経験

- ・将来、福祉人材をめざすだけでなく、関連領域にかかわったり、他産業で活躍したり、地域の一員として暮らす際にも、福祉分野の良き理解者・協力者となってもらおう。

中学生の学びのポイント

- 知識・関心を高め福祉のイメージを持つ



<具体的には…>

- ・書籍やインターネットなどでの調べ学習
- ・自分が関心のあることを自己覚知し、質問・疑問を持つ

- 本物の体験を通して、知識から実感としての理解に変換する
- 体験の中から新たな視点を発見し、関心を広げる

<具体的には…>

- ・職員から直接職業についての価値観を聞く
- ・利用者と直接かかわる
- ・当事者の体験談を聞く
- ・実際に職員と同じ体験をすることでその価値観を実感する

- 体験前の自分と比較し、成長や考え方の変化を実感する
- 福祉分野や福祉分野に携わる仕事に肯定的なイメージを持ち、関心を深める

<具体的には…>

- ・学んだこと、感じたこと、考えたことを言語化し記録する
- ・言語化した内容を発表などの場で他者にも伝える
- ・自分の実感から得た言葉で「福祉」のイメージを持ち表現する

福祉施設職員の関わりポイント

- ◎体験前の中学生の知識やイメージ、関心の内容を把握する(体験後の成長や考えの変化を言語化し伝えられるようにするため)

<具体的には…>

- ・学校における事前学習への参加や体験初日までの課題提供
- ・体験前の中学生の福祉に関する知識やイメージ、関心のあることを把握する

- ◎体験にあたって意識してほしい視点を問いかけ、伝えたい仕事の魅力が体験できる場面設定を意識する
- ◎一方的に伝えるだけでなく、中学生からの言葉を引き出す

<具体的には…>

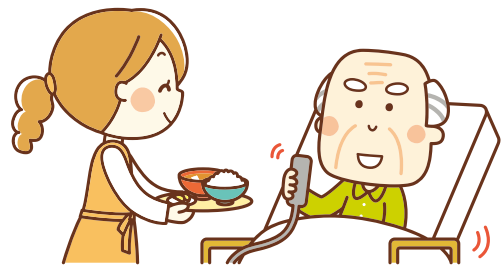
- ・体験の中で発見してほしい視点を課題として与える
- ・伝えたい仕事の魅力を意識した体験の場面設定など

- ◎中学生の変化を、利用者や職員の変化も交えながら、職員が言語化フィードバックする



<具体的には…>

- ・最終日に発表の場や報告の場を設定する
- ・職員や利用者の言葉でフィードバックする
- ・学校の発表会や報告会に参加する



I 事前学習期間

ツール①：
体験前後の中学生の考えを把握し比較するツール

ツール①は、事前学習期間では **左側** を中学生に書き込んでもらいます。事前の顔合わせの席や、職場体験初日のオリエンテーションで行っていきましょう。



やってみよう！

- 中学生から体験前の福祉に対する考えやイメージを把握し、体験後の考えやイメージと比較し、その変化を把握しましょう。
- 言語化することで中学生が自分の考えの変化を実感でき、施設職員も体験の効果把握できます。
- 中学生は緊張しています。職員や利用者との出会いや、職場体験の導入を円滑にする工夫も考えてみましょう。

例えば…

- ・利用者自身から話しかけてもらえるようお願いしておく
- ・会話できる機会を多く取り入れたプログラム内容(ゲーム・工作など)
- ・事前打合せ時に、特技などがあるか聞き、期間中に発表してもらう時間を作る
- ・「楽しく体験してもらう」をモットーに、多くの活動を組み入れる



ツール① - 1 事前 : どんな仕事? (体験前後の考えを把握し比較するツール)

この仕事はどんな仕事だと思いますか?

職場体験前の考え	職場体験後の考え
▶考えが変わるきっかけにな... どのようなものですか?	

モニター施設の中学生は
こんな風には書きました。
(職場体験前の考え)

- 生活に不自由のある人を手助けする大変な仕事。
- 大変な仕事。汚い。
- 今まで社会のために尽くされてきた方々への恩返しをする仕事。
- 子どもたちと一緒に遊ぶ。ケガがないように見守ったり教えたりする。
- 元気いっぱいな子どもと遊んだり給食を食べさせたり、親代わりに子育てする。
- 障がいのある人のお世話をしたりする。
- ひとりひとりの気持ちを理解して全体をまとめるのが大変そうだけど、人と触れ合うのが楽しそう。
- 障がいのある方を介助する仕事。
- 障がい者の人生をよりよくなる仕事。

ツール① - 2 事前 : 魅力は? (体験前後の考えを把握し比較するツール)

この仕事の魅力は何だと思いますか?

職場体験前の考え	職場体験後の考え
▶考えが変わるきっかけにな... どのようなものですか?	

モニター施設の中学生は
こんな風には書きました。
(職場体験前の考え)

- 大変そうだけど、さまざまな人と関われる。
- 困っている人を助け、人の役に立てる。
- 何かをしてお礼をもらえる。
- お年寄りに喜んでもらえる。元気でいてもらえる。
- 人とのコミュニケーションができる。
- ひとりで生活できないお年寄りを助ける。
- 子どもたちのパワーがもらえる。
- 命の大切さ、育児の大切さを知れる。
- 思い出がたくさんできそうな職場。
- 子どもたちの笑顔が見られる。子どもたちの成長を見守る。
- 大変なことやつらいことも利用者や仲良くなればなくなるところ。
- よくわからない。
- 助けてほしい人を助けられる達成感。

Ⅱ 職場体験受入れ期間

ツール②：
体験期間中に提示し関心を持って体験にかかわるよう投げかけるツール

ツール②は、体験期間中に提示し、関心を持って体験にかかわるようになるためのツールです。期間中に問いかけて、日々のまとめの時間や最終日に報告しあいましょう。

やってみよう！

- 「職員の『プロの姿』、利用者の『強み・パワー』を見つけよう！」と課題を提示することで、その課題を探す視点で体験にかかわってもらいましょう。職場体験後のふりかえりの際に、中学生が着目していた視点を把握でき、中学生の目から見たプロの姿をフィードバックすることができます。
- 中学生が無理なくできる範囲で探してもらいましょう。

ツール②-1 : プロの姿 (期間中に課題として投げかけるツール)

職員の「プロの姿」を見つけよう！

●あなたが見つけた職員の「プロの姿」 ●その理由は何ですか？

<input type="text"/>	▶	<input type="text"/>
<input type="text"/>	▶	<input type="text"/>
<input type="text"/>	▶	<input type="text"/>

職員コメント

モニター施設の中学生はこんな風にも書きました。

「信頼関係づくり」「効率と工夫」「声かけ」がプロの技
中学生が見つけた「プロの姿」は、①利用者ひとりひとりの信頼関係が築けているからできること、②効率的な動きや工夫をしていること、③行動したくなるような言葉など声かけのうまさ。
具体的には…

- それぞれの方に合った接し方をしている⇒それぞれを理解していないとできないことだから
- 周りをよく見ている⇒ひとつのことをやっても常に利用者の方を気にして見ている
- 利用者の気持ちを言葉がなくても感じ取る⇒利用者が何を求めているか言葉にしなくても職員が先に動いていたから
- どんなことでも臨機応変に対応⇒落ち着いて行動していたから
- 時間を有効に使う⇒世話と別の仕事を両立させていたから
- しっかりとした応答⇒小さい子の話にひとつひとつ「すごいね」など答えていた

ツール②-2 : 利用者の強み (期間中に課題として投げかけるツール)

利用者の「強み・パワー」を見つけよう！

●あなたが見つけた利用者の「強み・パワー」 ●その理由は何ですか？

<input type="text"/>	▶	<input type="text"/>
<input type="text"/>	▶	<input type="text"/>
<input type="text"/>	▶	<input type="text"/>

職員コメント

モニター施設の中学生はこんな風にも書きました。

「障がいの有無に関わらず」「大人でも子どもでも」を発見
体験中に利用者の「強み・パワー」を探することで、①「よいところ」を探してみる、②利用者＝単なる受け手と捉えない、③気づきと成長、の3つにつながっている。
具体的には…

- 身体が不自由でも自分にできることをしていた⇒エプロンやおしぼりをたたんでいたので
- いまの生活を楽しくしているように見えた⇒近くの人や職員と話していたから
- しっかりと生きようとしている⇒言葉や行動から感じた
- 間違えても落ち込まない⇒間違えても落ち込まず、とにかく生きていこうとする力が強いと思ったから
- けんかしてもすぐに仲直りできる⇒友達とけんかして怒っていたけど、ちょっとしたらすぐに仲直りしていた

ツール②-3 : 自分の成長 (期間中に課題として投げかけるツール)

自分の「成長・いいところ」を見つけよう！

●あなたが見つけたあなたの「成長・いいところ」 ●その理由は何ですか？

<input type="text"/>	▶	<input type="text"/>
<input type="text"/>	▶	<input type="text"/>
<input type="text"/>	▶	<input type="text"/>

職員コメント

モニター施設の中学生はこんな風にも書きました。

得た成長は「コミュニケーション」「視野」「責任感」
体験を通じて得られた成長を自ら文字に可視化し、職員のコメントでその意義を深めることができた。中学生が得た成長は、①コミュニケーションの力が高まった、②偏見がなくなったり視野が広がった、③安全や成長とかかわることで責任感を学んだ、の3つ。
具体的には…

- 最後までやりとげた⇒大変だったけれど、責任をもって最後までできたと思う
- 会話の工夫⇒友達との会話と違って、いろいろ考えながら会話できた
- 笑顔でいられる⇒気づくと自然に笑顔になれた
- 自分から話せるようになった⇒今までは自分から話すのが苦手だったけど、今回の体験で相手の気持ちを考えて話せるようになった
- 感謝が言えるようになった⇒職員の方、利用者の方にさせていただいたことにすぐに「ありがとうございます」と言えた

生徒自身についても新たな姿を発見してもらい、振り返りで確認する事もできます。

Ⅱ 職場体験受入れ期間

ツール③：
職員から仕事の価値観を聞くためのツール

ツール③は、体験期間中に、中学生から職員にインタビューして書き込んでいくツールです。中学生に福祉の魅力を伝えてみましょう。

やってみよう！

- 中学生からインタビューを受けてみましょう。インタビューに答えるときには、自分の仕事を施設の理念やミッションを基にした言葉で表現してみましょう。
- 「福祉」「介護」「保育」「障害」などの言葉ではなく、具体的な仕事の内容や魅力を言葉にしてみましょう。
- 職場体験の場では経験ができない、ケース会議やカンファレンスについては、仕事内容の説明でふれてみましょう。
- 業務内容や資格の説明だけでなく、職員自身の言葉で職業の価値を伝えるために、「この仕事を目指したきっかけ」や「働き続ける魅力」についても説明しましょう。
- 施設の行事やボランティアの参加について話してみましょう。
- 職員の中学時代の話もできると、共通点など見つけられ身近に感じてもらえるでしょう。

ツール③：職員が自分の言葉で仕事の内容や価値観を表現する

仕事の内容	ある一日の勤務の流れ
是非体験してもらいたいポイント	この仕事を目指したきっかけ
必要な資格について	嬉しいこと
	大変なこと
	私はこんな中学生でした

Ⅲ 事後学習・ふりかえり期間

ツール①：
体験前後の中学生の考えを把握し比較するツール

ツール①に、事後学習・ふりかえり期間では **右側** を中学生に書き込んでもらいます。体験前後での中学生の考えの変化を把握しましょう。

ツール① - 1事後：どんな仕事？ (体験前後の考えを把握し比較するツール)



この仕事はどんな仕事だと思いますか？

職場体験前の考え	職場体験後の考え

▶考えが変わるきっかけになった体験や場面はどのようなものですか？

モニター施設の中学生はこんな風には書きました。(職場体験前後の考えの変化)

体験前もどんな仕事か知識として知っているが、体験で自分なりの表現に

中学生は体験前も福祉の仕事を知識として知っているが、体験を通じて聞き出したことを自分なりの言葉で具体化していた。そこでは、イメージが肯定的に加わったり、単純に捉えていたイメージの幅が広がり、中学生なりに表現した新しい発見も見られた。

具体的には…

- 利用者の方ひとりひとりと真剣に向き合って寄り添っていく仕事。人を笑顔にできる仕事。
- 大変だけど、自分が笑顔になったり、させたりできる。
- においなどなくきれいだった。大変だけど楽しい。
- 介護の方だけでなく作業療法士などさまざまな人がいる。季節感のあるイベントも行っている。
- コミュニケーションすること。楽しんでもらうために工夫する。安心感をあげられる。
- 人との関わりを大切に、利用者さんとの新しい思い出を作っていく仕事。
- 子どもたちのために仕事ができる。子どもたちの成長が見られる。体力がいる仕事。
- 働いている親からはありがたい場所だと思う。優しく接し、ちゃんと怒っていて、愛情を持って見ている。
- 小学校に入る前に気持ちの整理ができるようにする仕事。子どもの創造力や発想力を引き出す仕事。
- 遊んだりするだけでなく、子どもを寝かせたり大変だけど、とてもやりがいのある仕事。
- ひとりひとりの対応を変えるのは大変だけど、理解できたときに達成感がある。ちゃんと休憩もとれる。人とふれあうことが楽しく、嬉しいことがたくさんある。
- 障がい者の人生を充実させる仕事。

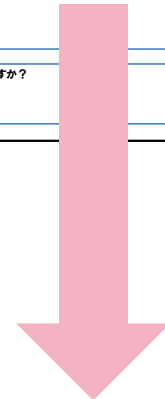
ツール① - 2事後：魅力は？ (体験前後の考えを把握し比較するツール)



この仕事の魅力は何だと思えますか？

職場体験前の考え	職場体験後の考え

▶考えが変わるきっかけになった体験や場面はどのようなものですか？



モニター施設の中学生はこんな風にかきました。(職場体験前後の考えの変化)

体験前の「役に立つ」から体験後は「自分も成長」

中学生が体験前に想像する魅力は「人の役に立てる」ということが多い。一方、体験後には、「自分自身の成長につながる」という声が増えるとともに、「人と人との関わり」に魅力を感じている。

具体的には…

- この職場にいと自然に笑顔が増えたり、人に優しくできる。
- お年寄りだけでなく、いろいろな人とコミュニケーションがとれる。
- 「ありがとう」と言ってもらえる。自分に興味を持ってもらえる。握手して「さよなら」を言える。
- 人生の先輩からいろんな話を聞いて、自分の存在を再確認できること。人間らしい仕事。
- 子どもの成長を近くで見られる。
- 機械ではなく、人の手でしかできない大切な仕事。
- 子どもの心情を知ることや斬新になれる。子どもの安全を確認することで、自分の身の回りも安全に気を配ることができるようになる。
- どういう風にしたら子どもは喜んでくれるかなと普段の生活ではあまり考えないことなので、自分の世界が広がった感じがしていいと思う。
- 個性を伸ばせることが魅力と思ったけれど、のびのびと自由にだけでなく、社会・集団の中で個性をコントロールできるようにしてあげることも仕事のひとつとわかり、人の土台作りに関われるのが魅力。
- 利用者や仲良くなれる。
- ひとりよりも集団で仕事をしての達成感。ふれあえる。
- 人の役に立てることを身近に感じられる。

Ⅲ 事後学習・ふりかえり期間

ツール④：
体験や気づきを肯定するツール

職場体験を終えた中学生に「修了証」を渡しましょう。
特に輝いていた場面から「賞」を授与します。

ツール④：職場体験を終えた中学生に「修了証」を渡す

修了証

_____ 殿

_____ 賞

あなたは、私たちの職場での職場体験を通して上記の賞のとおり活躍をいただいたことを証します。

_____ 年 月 日

施設名 _____ 印



現場の職員の生の声で、「福祉の仕事の価値観」を伝える

～伝えたい仕事の魅力を意識した職場体験の場面設定～

1 伝えたい仕事の魅力

2 伝える内容

3 現場での場面設定や対応

「一人ひとりの成長を
実感できる仕事」
を伝えるために…

・成長や自立にかかわる喜び
を伝える

人間関係形成能力

情報活用能力

将来設計能力

意思決定能力

「慕われたり
頼りにされる仕事」
を伝えるために…

・相手に喜ばれたり感謝され
る場面を意識して設ける

人間関係形成能力

情報活用能力

将来設計能力

意思決定能力

「自分自身が
成長していける仕事」
を伝えるために…

・体験者の気づきを促す
・体験者の経験や理解を深める
サポート
・体験者自身の成長を認め感謝
を伝える

人間関係形成能力

情報活用能力

将来設計能力

意思決定能力

職場体験のプログラムに含まれない業務(職員会議
や利用者との関係作り)やボランティア参加につい
ても説明があるといいね。



・例えば、昨日難しかったことが今日できるようになる子どもの成長
で感じることや、出来た喜びを一緒に味わえる楽し
さを伝えたり、中学生の話より引き出すようにする。



他にも…

- ・ひとりひとりと丁寧に関わる事でそれぞれの成長や自立を実感できること、またそれが励みになることを伝えている。
- ・利用者の持つ可能性を目の前の利用者の姿を通じて知らせ、今この時にかかわれる仕事の素晴らしさを伝えている。
- ・子どもが成長していく過程がいかに保育士にとって嬉しいことかを伝えている。

・例えば、相手が喜んでくれたこと、役に立てたこと
を実感してもらうよう、そっとフォローする。



他にも…

- ・なるべく多く利用者に関わってもらい、慕われたり喜んでもらうことで満足感を得てもらおうにしている。
- ・本人が工夫したことや頑張っていることをねぎらい、褒める。
- ・学生の些細な成長を褒めたり、助かっていることを感謝の言葉で伝えている。
- ・喜びを感じる場面に遭遇できるような活動を意図的に体験してもらっている。

・例えば、本人が感じたことを、まずはよく聞いて、
そのことを「よく気がついてくれました」と褒める。



他にも…

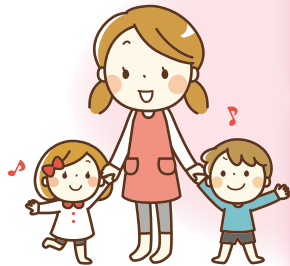
- ・失敗したことや、経験したことも伝えるように心がけていると同時に、自分たちが今まで良かったことや感動したことも伝えている。
- ・失敗、恥ずかしさなど自身にとって「負」と感じるものほど積極的に取組むよう話している。
- ・成功体験ができるようにしている。(子どもが喜ぶ。職員に感謝された、褒められた。うまく読みかせできた)。
- ・実際に利用者とかかわることで感じた感情をクローズアップし、体験した中学生の良かったと思う面(行動や心づけ)を必ず伝えるようにしている。

私たち、「職場体験」「ボランティア体験」がきっかけで、この仕事に就きました！

東京の福祉施設初任者職員が福祉に関心を持ったきっかけ

都内の福祉施設ではたらく初任者職員969人に聞きました！

保育所で働いている職員は…



中学生の時の職場体験がきっかけです。自分のすることで子どもが笑顔になることが嬉しく、この道に進もうと決めました。

中学時代、保育園での職場体験をした時、保育士として子どもたちの成長を支えていくことに関心を持ちました。

職場体験の際に、子どもたちとの関わり方がわからなかった私とは対照的に、子どもたちに愛情を持って関わっている保育士の方を見て、どんな仕事なんだろうと興味がわき、こんな仕事してみたいと思った。(憧れ)

中学・高校と保育施設で職場体験をして子どもと接していることが楽しく、担任という仕事にあこがれを持ったから。

障害者施設で働いている職員は…

中学生の時に高齢者施設で職場体験を行い、人と関わる仕事に興味を持った。

職場体験した際、この仕事には正解がなく、自分次第でいくらでも成長できると感じた。

施設でたくさんの経験(業務や利用者さんとの関わり)をさせてもらったことで、責任感や体力、気力のいる大変な仕事ではあるが、利用者さんの笑顔、関わりからやりがいを感じられる仕事だと思った。



高齢者施設で働いている職員は…



中学生の時の職場体験にて、高齢者の笑顔に惹かれて。言葉を発せられない人の言葉を代弁したいと思った。

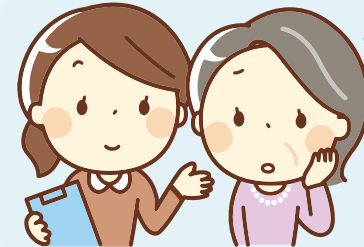
職場体験で福祉施設へ行き、高齢者の方々と関わるのが楽しく、自分にあっていると思った。

中学校のときの職場体験で老人ホームに行き、ご入居者の方とのコミュニケーションの中でやりがいを感じ、興味がわきました。

中学校の職場体験でグループホームに興味を持ち、その後、高校でボランティアをして専門的な知識を持ちたいと思った。

中学生だった頃の施設での職場体験がきっかけ。高校生の時にどういう職種に就きたいか考え、中学生の頃の体験を思い出し、福祉の専門学校に進学したいと決まりました。

中学生の「福祉への疑問」に 応えるために



～福祉の仕事ってどんな種類(資格)があるの?～ 人に喜ばれ、人の役に立てる仕事!



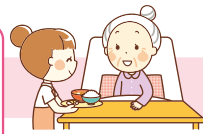
どんな風に役にたてる?

仕事の種類

主な職種

資格

直接生活のお手伝いをして喜ばせたい



介護(ケアワーク)の仕事

身体・知的・精神の障害・病気などにより、日常生活を行うのに支障がある人の介護を行います。

<職種>

- ・ケアワーカー(介護職、生活支援員、介助員)
- ・ホームヘルパー

<資格>

- 介護福祉士 実務者研修修了
- 介護職員初任者研修修了

生活の困りごとの相談にのり安心してもらいたい



保育の仕事

子どもに食事やトイレ、睡眠などの基本的な生活習慣を身につけさせたり、遊びを通して集団性活動や社会性を育成することを支援します。

<職種>

- ・保育士
- ・保育教諭

<資格>

- 保育士
- ※幼稚園教諭免許状や児童指導員任用資格も関係する場合があります

相談援助の仕事

サービス利用者の生活全般の相談に応じて助言・援助、精神的な支援を行います。共通していることは、ケースワークやグループワークなどの援助技術を利用して利用者の自立を支援することで、ソーシャルワーカーと総称されることもあります。

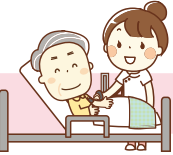
<職種>

- ・生活指導員
- ・生活相談員
- ・相談支援専門員
- ・ソーシャルワーカー
- ・職業指導員
- ・就労支援員
- ・福祉事務所職員(行政福祉職員)
- ・福祉活動専門員(地域福祉コーディネーター)
- ・児童指導員
- ・ケアマネジャー(介護支援専門員)

<資格>

- 社会福祉士 精神保健福祉士
- 社会福祉主事任用資格
- 児童指導員任用資格
- 介護支援専門員

病気やけがの人が元気になる手伝いをしたい



看護の仕事

医師の医療行為を支えるとともに、利用者の日常的な健康管理や衛生管理、医療的なケアを行います。

<職種>

- ・看護職(看護師、保健師)

<資格>

- 看護師 保健師

リハビリテーション関係の仕事

身体の障害の機能回復や日常生活への復帰を図るリハビリテーションを行います。

<職種>

- ・理学療法士
- ・作業療法士
- ・言語聴覚士
- ・視能訓練士

<資格>

- 理学療法士 作業療法士
- 言語聴覚士 視能訓練士

おいしい食事で喜ばせたい



栄養・調理関係の仕事

利用者の食事を支える役割を担います。

<職種>

- ・栄養士
- ・調理員

<資格>

- 栄養士 調理師

たくさんの方がきちんとサポートできる仕組みをつくりたい



運営管理関係の仕事

事務・経理、そして管理者など、施設や事業所の運営管理の仕事を行います。

<職種>

- ・管理者(施設長など)
- ・事務職員



こんな活躍の場面もあります

教育現場の福祉

- ・スクールソーシャルワーカー(SSW)
- ・特別支援学校教員



医療現場の福祉

- ・医療ソーシャルワーカー(MSW)
- ・精神科ソーシャルワーカー(PSW)



公務員の福祉

- ・福祉事務所ケースワーカー(CW)など



社会福祉協議会の福祉

- ・地域福祉コーディネーター(CSW)など



市民活動・ボランティア

- ・NPOや市民活動団体での活動など



～社会福祉施設ってどんな種類があるの？～



1 子どものための施設

2 障害のある人のための施設

3 その他の施設

4 高齢者のための施設

自宅から通じるところ(通所)

- 保育所等
 - (1) 保育所
(認可保育所、認証保育所、認定こども園)
- 児童福祉施設
 - (2) 児童館
 - (3) 福祉型児童発達支援センター
 - (4) 医療型児童発達支援センター
- 障害児通所支援等事業所
 - (5) 児童発達支援事業所
 - (6) 放課後等デイサービス事業所
 - (7) 保育所等訪問支援事業所
 - (8) 障害児相談支援事業所

- 障害者サービス等事業
 - (1) 自立訓練(機能訓練)事業所
 - (2) 自立訓練(生活訓練)事業所
 - (3) 就労移行支援事業所
 - (4) 就労継続支援(A型)事業所
 - (5) 就労継続支援(B型)事業所
 - (6) 計画相談支援事業所
 - (7) 地域相談支援(地域移行支援)事業所
 - (8) 地域相談支援(地域定着支援)事業所
- 身体障害者社会参加支援施設
 - (9) 補装具製作施設
 - (10) 身体障害者補助犬訓練施設
 - (11) 盲導犬訓練施設
 - (12) 点字図書館
 - (13) 点字出版施設
 - (14) 聴覚障害者情報提供施設
 - (15) 盲人ホーム

- その他の社会福祉施設等
 - (1) 授産施設(授産場)
 - (2) 無料低額診療施設
 - (3) 城北労働・福祉センター
 - (4) 老人休養ホーム
- その他の社会福祉事業
 - (5) 東京都社会福祉協議会
 - (6) 区市町村社会福祉協議会

- (1) 通所介護
- (2) 地域密着型通所介護
- (3) 通所リハビリ
- (4) 老人福祉センター(A型)
- (5) 老人福祉センター(B型)

生活するところ(入所)

- 児童福祉施設
 - (9) 助産施設
 - (10) 乳児院
 - (11) 母子生活支援施設
 - (12) 児童養護施設
 - (13) 児童自立支援施設
 - (14) 福祉型障害児入所施設
 - (15) 医療型障害児入所施設
 - (16) 自立援助ホーム

- 障害者支援施設
 - (16) 障害者支援施設
 - (17) 共同生活援助(グループホーム)

- 婦人保護施設
 - (7) 婦人保護施設
- 生活保護法の保護施設
 - (8) 救護施設
 - (9) 更生施設
 - (10) 医療保護施設
 - (11) 宿所提供施設
- その他の社会福祉施設等
 - (12) 宿泊所

- (6) 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)
- (7) 介護老人保健施設
- (8) 無料低額介護老人保健施設
- (9) 養護老人ホーム(一般)
- (10) 養護老人ホーム(盲)
- (11) 軽費老人ホーム(A型)
- (12) 軽費老人ホーム(B型)
- (13) 軽費老人ホーム(ケアハウス)
- (14) 軽費老人ホーム(都市型)
- (15) 有料老人ホーム
- (16) 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

相談するところ

- ① 児童相談所
- ② 子供家庭支援センター
- ③ 女性相談センター
- ④ 心身障害者福祉センター
- ⑤ 障害者福祉会館
- ⑥ 生活支援ハウス
- ⑦ 東京都福祉人材センター
- ⑧ 精神保健福祉センター
- ⑨ 発達障害者支援センター
- ⑩ 地域包括支援センター及び在宅介護支援センター

- 〈参考〉
- ① 福祉事務所
 - ② 保健所・保健センター

- 参考資料：
- ・東京都福祉保健局「施設等一覧」
 - ・厚生労働省「介護事業所・生活関連情報検索」
 - ・東京都社会福祉協議会「ふくしのことがわかる本」

さまざまな人に
さまざまな施設が
用意されて
いるんだね



福祉職場で働き続ける10の魅力

(東京の福祉施設初任者職員が感じる福祉の仕事の楽しさや魅力)

1 「ありがとう」という感謝の言葉・笑顔が見られる仕事



- ・利用者やご家族から直接「ありがとう」という感謝の言葉を頂けること。
- ・ふとした瞬間に訪れる幸せな時間、「笑顔」と「ありがとう」。
- ・利用者が笑顔で過ごしているのを見ると、とてもやりがいがある仕事だと感じる。
- ・大変なこともあります、「ありがとう」「いつも迷惑かけるね」とそのひとことで疲れがふっとぶ。
- ・どんな小さな事でも感謝される喜び、利用者と一緒に1日を楽しんでやれるのが魅力。
- ・「出来た」「うれしい」「たのしい」など、利用者の笑顔が見られること。

2 嬉しい! 楽しい! そして達成感、満足感も得られる仕事

- ・悩みを共感し、手伝い助け合い、小さな目標を達成できた時の喜びがとても大きく、笑顔が増える。
- ・利用者との関わりの中で自分が元気や笑顔をもたらすことができたくさんある。それはお金にはかえられないもの。
- ・コミュニケーションをとることが楽しい。
- ・利用者の方々が我々に与えてくれる「クスツ」とできる小さな笑いが、この仕事を続ける原動力。
- ・がんばった分だけ、よい結果で戻ってくる。



3 ひとりひとりの幸せを考え、未来につながる仕事



- ・利用者ひとりひとりの幸せを考えられるところが福祉の仕事の魅力だと思う。
- ・ひとりひとり個性があり、難しい人であっても本気で傾聴し、関わることで心を開いて親しみをもち接することができるようになることにやりがいを感じる。
- ・未来につながる仕事であること。大きくなった子どもの笑顔がうれしい!
- ・その子が退所してから安定した生活ができるよう、毎日どうしたらよいのかと考え、その答えが見つらず悩むこともあります、そこもまたやりがいと魅力を感じる。
- ・利用者とのいまの関わりが明日、明後日…十年後にもつながっているところ。

4 変化や成長を近くで感じ、利用者や家族、職員とともに喜べる仕事

- ・いままでできなかったことができるようになったときの達成感や笑顔は自分の喜びになっている。
- ・普段しゃべらない利用者がしゃべってくれたりすること。
- ・子どもの頑張りや成長をそばで見られる事。
- ・子どもたちが目を輝かせて遊んでいる姿、できなかった事ができるようになった事を子どもと保護者と喜び合える瞬間。
- ・子どもの成長を保護者だけでなく、その他の職員や子どもたち同士で喜び合えたりすること。
- ・子どもたちの様々な表情に会え、その子たちの成長に貢献できるところ。
- ・利用者がやりがいや仕事に対して意欲(就職したいなど)を感じている姿を間近で見られること。



5 人と向きあい、人生の節目に立ち会う仕事



- ・人の「生」と「死」について仕事をしていくうえで色々考えさせられる。
- ・人それぞれの人生があるという事実。みんな、違うという事実を知ることができるのが魅力。
- ・「死」という場面に立ち会える事で「自分の人生をどう生きるか」について早いうちから考えられる。
- ・最新まで、その人らしい生活を支援していくことができるところに魅力を感じる。
- ・自分との関わりでその人が喜びや安心、ポジティブな感情をひとつでも多く作ってあげたいと思う。
- ・人と人が支えあっていくことで成り立つところ。
- ・人と接する仕事であるため、反応が直に伝わってくることは魅力のひとつであると感じる。
- ・子どもたちの成長や人生の節目に立ち会うことができる。
- ・様々な人の人生に触れ、その人にとって新たな価値観を提供できる点。
- ・人生の先輩方の生き方、人生観にふれること。それがひいては自分自身の人生の糧になる。
- ・人と人との関わりの中から感じる、やさしさやあたたかさ。またいろんな考え方・感じ方があることに気づいたこと。

あなたはどんな風に人に喜ばれるとうれしい?



6 信頼される仕事



- ・利用者に直接ふれる身体介護を行うことによって、信頼関係が築けることが魅力。
- ・ご利用者から頼られていることが、業務の中でもやりがいを感じる人が多い。
- ・人間関係から信頼関係につながったり、人生について教えていただける楽しさがある。
- ・こちらから人を信じて、相手にも信じてもらう中で信頼関係を築いて、相手も自分も人として広がり、大きくなっていくことは大きな魅力。
- ・子どもや保護者と信頼関係ができた時のやりがい。

7 自分の個性を活かし成長できる、日々学びがあり人間性が豊かになる仕事

- ・それぞれ持つ個性を活かし、日々成長できる。
- ・利用者に対する支援を通して人のことを考える力を養える。
- ・考え方や発想法の幅が広がる。
- ・自分が関わったことのない人たちとのコミュニケーションはとても勉強になる。
- ・自分の知識が増えて様々な価値観を身に付けることができ、視野が広がる。
- ・努力した分、必ず返ってくるものがある。
- ・やさしさと強さが身に付くと思う。
- ・日常のささいなできごとに対する喜びに気づかされる。

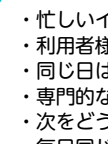


8 私の行動で誰かが変わる…人の役に立つ仕事



- ・人のために自分が動くことで自分も満たされる、助けてあげることで自分自身も助けられていると感じる。
- ・誰かのために働く満足感。
- ・自分自身が直接的に人の生きる力になる。
- ・人のために働いている、人の役に立っているということ。
- ・自分が行った支援が利用者の方の安心や自立につながる。
- ・「あなたがいてくれて本当によかったわ」と言ってくれたこと。
- ・自分が必要だと感じられる時。
- ・お年寄りから「ありがとう。あなたでよかった」と言われること。
- ・自身の企画したプログラムなどを通じて、利用者から名指しで「この人の話を聞いたり、この人のいるプログラムに参加したい」という喜びの声をもらうこと。
- ・利用者が自分を頼ってくれた時や、名前を覚えてくれた時に嬉しいと思う。

9 同じ日は1日もなく、毎日新しい発見がある仕事



- ・忙しいイメージがあるが、毎日いろいろな発見できて勉強になる。
- ・利用者様のニーズはどこにあるのか、発見する楽しさ、その過程も醍醐味のひとつ。
- ・同じ日は二度とこない。毎日変化があり楽しい。
- ・専門的な仕事であるが、現場に立つと思ってもよらないことがあったり、毎日が様々で楽しい。
- ・次をどうしたらいいかなど考えたりすることでもっと楽しくなる。
- ・毎日同じことのくりかえしでないのが魅力。
- ・日々に変化があり、時間が経つのが早いほど試行錯誤の毎日ですが、そんな毎日がとてもよい。



10 正解はないが、チームで専門性をもち考え続ける仕事



- ・会社とは違い成績がついたりする仕事ではないが“やりがい”はとても感じる場所。
- ・ノルマや数字ではかれないやりがいがあるところ。毎日心から笑える瞬間があること。
- ・多様な人生観にふれて、自身の視野が広がり、アプローチの仕方が変化する点がやりがいである。
- ・自分で考えてチームで行動できる楽しさ。
- ・困難な事もみんなで支えれば(関係機関など)なんとかなる。
- ・様々な生活のあり方をひとりひとりの中に認めていくことが出来る。
- ・言葉を発することができない利用者さんでも、表情やしぐさで意思疎通ができたときと自ら感じたとき。
- ・個性を知ることができ、その個性に合わせた支援、コミュニケーションを実施することが楽しい。
- ・失敗から次へとつなげられる仕事である。
- ・日々の支援に正解がないこと。
- ・チームで考えた支援を実践して成果がでるとやりがいを感じます。

ボランティア体験をした中学生の声を紹介します！

職場体験の前に“知りたい”とき、体験後に“会いたい”とき ～ボランティア活動に出かけてみよう！～

●職場体験以外にも、社会福祉施設を知ることができる方法の1つに、「ボランティア活動」があります。行きたいところが決まっていれば、直接連絡をとる方法もありますが、決まっていなければ、ボランティアセンターに相談してみましょう。このページでは、ボランティア体験(「夏の体験ボランティア」キャンペーン2018に参加)をした中学生の感想を紹介します。

高齢者施設でのボランティア

- ・利用者の方の髪の毛を乾かしながら、お話し、その方の優しさが伝わってきた。
- ・ひとりひとりに対して食事の配慮をしていることなど、それぞれに合った支援になっていることがわかった。
- ・利用者の笑顔と「ありがとう」の言葉が心に残った。
- ・盆踊りをはじめ踊った。
- ・戦争のお話をはじめ、たくさんの貴重な人生経験のお話を聞くことができた。



高齢者施設(アトリエ村)の夏祭りボランティア

障害児・者施設でのボランティア

- ・はじめは上手く話しかけることができなくて、戸惑いもあったけれど、職員さんを介して会話をしていくうちに少しずつ慣れて、自分からも声をかけることができるようになった。
- ・言葉が聞き取れなくて、苦勞することもあったけれど、聞き返せば理解できる内容なんだとわかった。
- ・話を聞く姿勢が大事だと学べた。
- ・障がいのある子どもたちと実際に関わって、自分の目で見て、よく知ることができて、自分の中の視野が広がったと思う。
- ・どう接すれば良いかわからないことが多かったけれど、きちんと周りを見るのが大切だと思った。



●ボランティアセンターに行ってみよう！

ボランティアセンターは、
・ボランティア活動してみたい
・ボランティア活動の情報がほしい
・活動するうえで困っていることがある
という人たちのための相談窓口です。
全国各地、みなさんの住む町にもありますので、積極的に利用しましょう！

ボランティアセンターの主な活動

- (1) 活動先の紹介・活動中の相談
 - (2) ボランティア活動に関する情報提供
 - (3) 入門講座やセミナーの開催
 - (4) ボランティア活動に関する課題の研究
 - (5) ボランティア活動者の交流会を開催
 - (6) ボランティアまつり・啓発キャンペーン
 - (7) ボランティア保険の手続き
 - (8) ミーティングのための会場や機材の貸し出し
- ※東京ボランティア・市民活動センターのホームページから都内のボランティアセンターを探すことができます。



「福祉の魅力可視化プロジェクト」では…

- 東京都社会福祉協議会では、平成28年度に3つの施設部会から選出した委員、区市町村社協、NPO、学識経験者で構成する「福祉の魅力可視化プロジェクト」を設置しました。
- プロジェクトでは、中学生を受け入れている施設に職場体験期間中の具体的な取組みを尋ねたり、中学生を送り出す学校側の「職場体験学習」における教育目的をヒアリングするなどの取組みをかさね、平成30年3月、このハンドブックの前身となる小冊子『いま私たちが職場体験にくる中学生に伝えたいこと』を作成し、そこで、初めて福祉の視点から職場体験で受け入れる施設が活用できるツールを提案しました。
- そして、30年度には、以下のモニター施設で中学生の受入れの際に、同ツールを使っていただき、それらをふまえ、さらにブラッシュアップして改訂したのが、このハンドブック『私たちが中学生に伝えたい福祉の魅力』です。

期間中に中学生の受入れのあったモニター施設一覧

1	フローラ石神井公園(社会福祉法人 練馬豊成会)	高齢者福祉施設協議会
2	デイサービスセンター はなはた(社会福祉法人 聖風会)	高齢者福祉施設協議会
3	小松原園(社会福祉法人 親和福祉会)	高齢者福祉施設協議会
4	喜多見ホーム(社会福祉法人 南山会)	高齢者福祉施設協議会
5	博水の郷(社会福祉法人 大三島育徳会)	高齢者福祉施設協議会
6	よしの保育園(社会福祉法人 よしの保育園)	保育部会
7	アゼリヤ保育園(社会福祉法人 アゼリヤ会)	保育部会
8	田無保育園(社会福祉法人 大誠会)	保育部会
9	きたしば保育園(社会福祉法人 聡香会)	保育部会
10	大田区立くすのき園(社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会)	知的発達障害部会
11	啓光学園 啓光えがお(社会福祉法人 啓光福祉会)	知的発達障害部会
12	白州いずみの家(社会福祉法人 しあわせ会)	知的発達障害部会
13	さやま園(社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会)	知的発達障害部会

モニター施設レポート ▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶

次ページ以降に3つのモニター施設が実際に中学生を受入れた際の取組みの工夫を紹介します。

中学生が職場に来ることで、職員にも活気

「博水の郷」は世田谷区にある、定員90名の特別養護老人ホームです。

今期は秋に中学校2校から、6名と2名を3日間ずつ職場体験として受入れをしました。受入れ人数の上限は特に設定しておらず、中学校からの要請に応じて受入れています。

職場体験の受入れは、例年、介護課課長代理の山本伸秀さんが担当しており、体験内容に応じて各フロアの職員と一緒に対応をしています。

中学校からは、職場体験に向けて担当の先生の訪問があり、体験のねらいについて説明がありましたが、「先生のかかわり方は中学校によってそれぞれ」と山本さんは話します。

事前オリエンテーションでは施設の内容を説明し、シートを依頼

体験の1週間くらい前には生徒から電話がありオリエンテーションの日程を調整し、当日は生徒が施設に来ます。オリエンテーションでは、施設で決めている体験の内容を説明します。また、特別養護老人ホームはどういう人が利用している施設なのか、何のための施設なのかも話すようにしています。専門的な話ばかりかみ砕いて説明しています。それでも難しいような表情をしていれば、身近な経験、例えば祖

父母といっしょに住んでいるか、などをきっかけに話をするようにしています。

中学生に参加理由を聞くと、「ボランティアで来たことがある」「高齢者が好き」などがあがりました。

今回、東社協「福祉の魅力可視化プロジェクト」で作成された事前学習用のシートはこのときに渡し、記入して初日に持参してくれるようお願いしました。設問は「どのような仕事が福祉だと思いますか?」「老人ホームはどんな仕事だと思いますか?」「この仕事の魅力はなんだと思いますか?」の3点です。このようなシートを使うのは今回が初めてでしたが、全員が提出してくれました。山本さんは生徒の熱心さを感じたと話します。

また、オリエンテーションでは守秘義務のことなども説明し、個人情報保護に関する誓約書を記入してもらっています。

利用者とのコミュニケーションをとるのに四苦八苦

体験の中心は、お年寄りとのふれあいになるように心がけています。しかし、お年寄りとのコミュニケーションは中学生にとってはハードルが高く、「30分も持たないことが多い」と言います。気を使って利用者から話しかけてくれることもよくあります。過去には、何もできずに手持ち無沙汰にしている中学生もいました。そこで山本さんは「コミュニケーションは、自分の頑張り次第で、利用者の反応は変わるよ」と山本さんが励ますことで、職員の見習いをして話しかけるタイミングや話しかけ方を工夫する生徒が出てくるようです。コミュニケーションが上手な生徒は、2日目、3日目とだんだんと利用者と話することに慣れてきて、笑顔で会話がはずんでいる様子も見られます。

また、博水の郷の職場体験では、「車イス体験」が必ず含まれます。1日目に1時間ほど、さまざまな種類の車イスを用意して、生徒同士で乗ったり押ししてもらって、感想を聞いています。「思ったより怖い」といった感想をもらう生徒が多いです。

他に、職員と一緒に日常的な掃除やクラブ活動の手伝い、お茶出しなどもしてもらっています。山本さんは、「若い中学生が来ることで利用者は笑顔になり、続いて職員にも活気が出るように感じている」と言います。

体験を通して中学生が感じたこと

今回、シートを使いながら職場体験をすすめたことで、山本さんは「中学生が目的を意識しながら参加できたように感じる。やる気を感じた」と話します。

利用者が何度同じことを質問しても、毎回違った対応を工夫している職員の姿に驚いた、という声は多く、生徒自身が困ってしまうような場面でも、職員がなんでもないように対応しているところはプロを感じてもらえる場面ようです。

シートの「職員のプロの姿を見つけよう」でも、「動きがすばやい」「いつも丁寧に接している」「どんなことにも臨機応変に対応している」「いつも笑顔」などが書かれていました。職員も、中学生だから見えることに気づかされ、「自分たちのケアを見直すきっかけになったり、声掛けを反省したりすることもあった」と言います。

事前オリエンテーションでお願いしたシートには、同じ設問を体験後にも書いてみるように作られていますが、「老人ホームはどんな仕事だと思いますか?」について「体験前」には「今まで社会のために尽くされてきた方々に恩返しする仕事」と書いていた生徒が、「体験後」には「人とかかわりを大切にして、利用者さんとの新しい思い出を作っていく仕事」と書いていました。「体験前」には「食事、お風呂の手伝い」とだけ書いていた生徒も、「体験後」には「利用者さんが安心して過ごせるようにサポートすること」と変化していました。体験したことを中学生らしく視野の広がった言葉にしてくれました。

また、「この仕事の魅力はなんだと思いますか?」の問いに対しては、「体験後」に「昔の人の貴重な経験を一番寄り添って聞ける」「人とかかわりを大切にできる」「笑顔を見せてもらえる」などがあげられていました。



(社福)大三島育徳会 特別養護老人ホーム博水の郷 山本伸秀さん

最終日には、「反省会」として振り返りの時間を設けています。そこでは、まず甘みのない紅茶にとろみをつけたものを中学生に飲んでもらっています。「おいしくない」という反応に、山本さんは「そうだよ。だけど水分を摂らないとからだによくないから、利用者は一生懸命に飲んでるんだよ。もし飲まないまましているとどうなっちゃうのかな」と投げかけ、「利用者の生活を想像してもらっている」と言います。あわせて最期のようなシリアスなことも話していますが、生徒たちは真剣に聞いてくれます。

反省会までに、生徒たちはシートを埋めて提出してくれましたが、今回は時間がなくて、コメントを返せなかったことが心残りでした。同じ高齢者施設でも、特別養護老人ホームはデイケアなどと比べて、中学生に伝えられることが難しいと感じていましたが、シートを使いながら職場体験をすすめたことで、生徒に何をどこまで伝えたいのかが明確になりました。山本さんは「やりやすかった。また生徒の感じていることがわかって楽しかった」と話します。

地域と日常的な関係を築く

体験後の関係を続けるために、生徒を施設行事に誘ったところ、夏祭りに友人を連れて来てくれました。日常的な関係を築くことは難しいことですが、施設行事のお知らせを副校長先生に持っていくなどの日ごろから学校に顔を出すことの大切さを感じています。

地域とのつながりを目指すなかで、中学生・高校生・大学生による放課後の時間帯でのボランティアを導入しています。施設職員が比較的手薄になる夕方の時間に、話し相手、車イス洗い、お風呂掃除などしてもらっています。

また、世田谷区内の特別養護老人ホームによる「せたがや介護普及有志の会」として小学校・中学校への「ふくしの授業」を計画しています。

山本さんは、「中学生の職場体験もボランティアも、地域とのつながりを築くうえで、そして施設からの情報発信として重要なことだと考えています」と語ります。



オリエンテーションで渡したプリント

よしの保育園 (東京都青梅市)

仕事の奥深さを感じる実りある時間に ～職場体験を通じて次世代育成～

東京都青梅市にある「よしの保育園」は、約10年前から学区内の1つの中学校から毎秋2年生が5日間の職場体験にやってきました。人数は男女混合で5人ほど。卒園児が来た年もありました。学区内には5つの保育園と1か所幼稚園があります。園長の増澤正見さんは「学校からはいずれの園も職場体験先として人気があると聞いている」と言います。

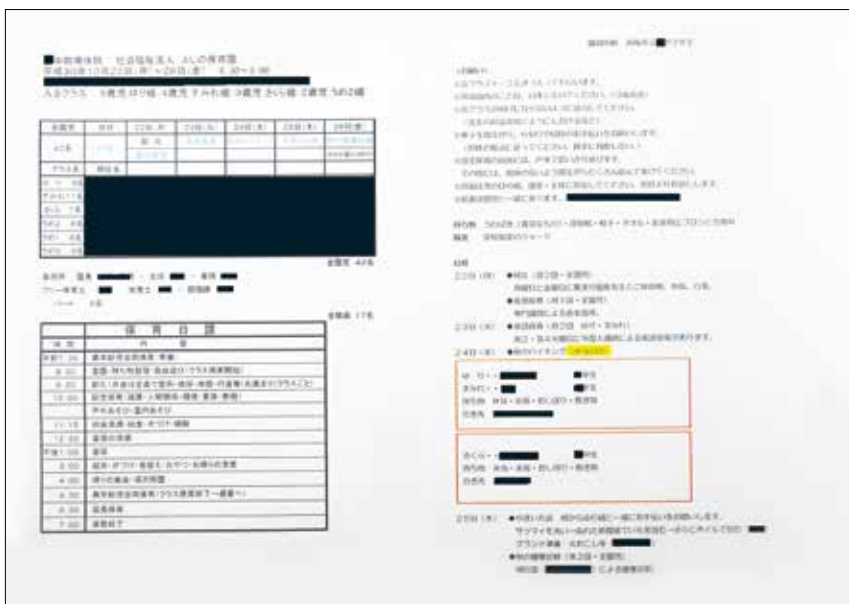
職場体験実施の1週間前に生徒たちの事前訪問があります。その時に、期間中のクラス割や行事スケジュール、注意事項をA3サイズ1枚の紙にまとめて説明しています。具体的な注意事項は、守秘義務、事故予防、衛生指導、挨拶の4点です。

保育士の仕事は遊ぶことだけではなく、責任が必要な仕事

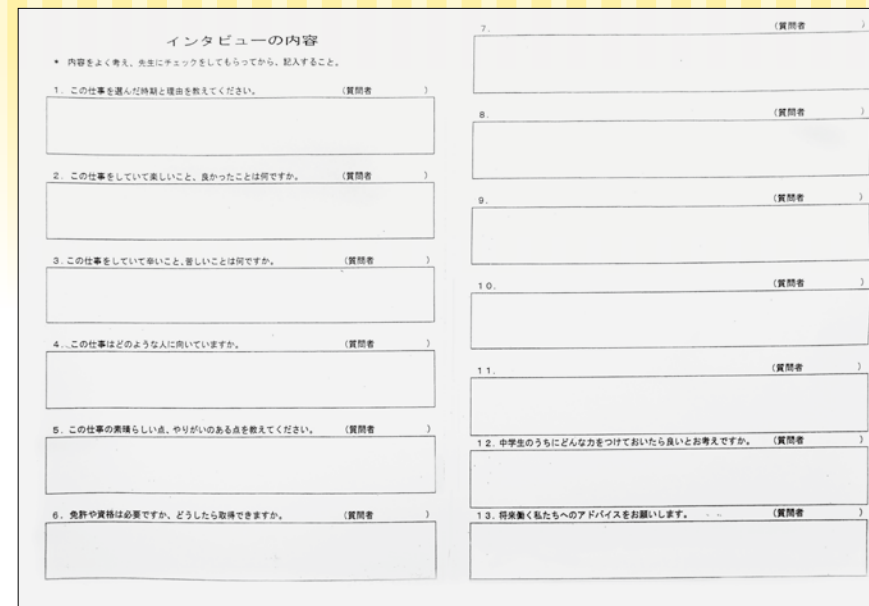
生徒は初日、緊張して子どもとどのように関わってよいかわからない様子ですが、子どもたちから「お兄さん、お姉さん一緒に遊ぼう」と誘われるなど、何か嬉しい出来事があるとそれがきっかけになって慣れてきます。男子生徒はサッカーや鉄棒などダイナミックなことを見せてくれる。主任の落合ますみさんは「普段女性が多い保育士には限界があるので、子どもたちへのよい刺激になっている」と話します。職場体験の期間中には、子どもと遊ぶ時間を多く設

定し、ハイキングや焼き芋会などの園の行事を入れるようにして、中学生に手伝ってもらっています。生徒が慣れてくるのは3日目くらいからです。

保育士の仕事は子どもと遊ぶだけではありません。それを知ってもらうために、生徒たちには掃除やおもちゃ拭きなど環境整備にもかかわってもらっています。受入れ当初の生徒は、子どもと関わりたくて保育園を選んでも環境整備があるとつまらなそうにしている子もいたと聞いています。しかし10年職場体験先をやっていると先輩からの情報も蓄積しているようで、そういう子は減ってきました。なかでも、子どもたちのお昼寝の時間は、保育士も寝ていると思われていたようで、体験後の子どもたちの感想を見ると「保育士の仕事は、掃除やおもちゃの拭き掃除などの時間も多く、保育園の仕事は遊んでいるだけではなく、準備、掃除、安全面、衛生面に配慮していることに気づいた」と言って帰ってくれることが多いです。一方で、体験施設の受け入れ体制やプログラムが十分でなく、保育士を希望していても魅力を感じられなくなり、他業種に興味を持つきっかけになってしまったことがあると話してくれた保育志望の学生に出会ったこともありました。落合さんは「与えられた役割を果たすだけでなく、子どもとのふれあいを通して保育の魅力を感じてほしいので、『大



事前訪問で渡しているプリント



中学校からのインタビュープリント

変だったけど楽しかったね』と思って帰ってもらいたい。実りのある体験になるように心掛けている」と話します。

東社協「福祉の魅力可視化プロジェクト」で作成したシートは、職場体験前に渡したり期間中に渡しました。しかし、中学校からの課題のインタビュープリントもあるため、そちらが優先されてしまったり、学校に戻って部活に行く生徒もいるため、最終日の夕方まとめてコメントを書くことで精一杯で、ゆっくり振り返りの時間を設けることはできませんでした。

職場体験後に届く「職場体験新聞」

よしの保育園で生徒を受入れている中学校が職場体験に力を入れているため、職場へインタビュープリント(課題)が用意されています。

生徒からの質問を受け職員はそれに回答し、生徒がまとめたものは、事後届く手紙に書かれています。そのほかにも詩や俳句、感想も書かれています。ひとりひとりの個性があって面白く、受入れてよかったと思う瞬間です。2年前のときには、「職場体験新聞」が一人1枚送られてきました。パソコンの授業と連動して作成したものかもしれません。

日常的に中学校とかかわりが持っていないので、事後学習や職場体験発表会の場に出席することはなっていない。しかし夏の体験ボランティアに9名来てくれて、プール遊びの補助をお願いするなど助けてもらっています。

職場体験の受入れは次世代育成にとって大切

はじめのころは、受入れに否定的な時期もありま

した。しかし前任の主任が「いつか自分たちの子どももお世話になるのだから、大変だけど受入れてあげよう」「私たちだって学生時代は、はしゃいでしまうような時期があったでしょう。そんな元気な子がいつか力をつけてうちで働いてくれたらいい。自分たちも地域に見守られて育ったのだから、恩返しだ」と地域のかなで役割を果たすべきだし、社会福祉法人の役割として地域で成長を見守る意味を伝えてなだめたこともあり。次世代の育成にとって職場体験は必要だと思って受入れを継続しているよしの保育園では、卒園生が職場体験や夏のボランティア体験を経験し、平成31年4月から新規採用になり、一緒に働く予定です。



左から
よしの保育園 園長 増澤正見さん
主任 落合ますみさん

職場体験で障がいのある利用者と関わり、「支える」ということを理解していく中学生

「大田区立くすのき園」は、大田区の南部にある知的障がい者が通う、定員70人の就労継続支援B型の事業所です。園には、毎年秋に近隣の2つの中学校から2年生が職場体験にやってきます。支援係長の紀伊良彦さんは、「例年のこととして、毎年、新しい先生から『今年もよろしくお願ひします』と受入れの依頼がある」と話します。

園では、従来、中学生を受入れる際にマニュアルや書式は用意していませんでした。そこへ平成30年10月、知的発達障害部会を通じて「東社協『福祉の魅力可視化プロジェクト』で作成したシートのモニター施設をやってみないか」との誘いがあり、このハンドブックで紹介しているシートを活用することにしました。紀伊さんは「シートがあると、伝えようとするものの視点が明確になりやすい。また、体験して感じたことを中学生が文字にしてくれるので『心の変化』が可視化されやすい」と指摘します。「最初は生徒さんの負担になるかなと心配したが、学校に確認すると、『ぜひ書かせてください』とのこと。生徒さんもしっかりと書いてくれた」と話します。

例えば、「この仕事はどんな仕事だと思いますか?」というツール例①のシートでは、体験前は「弱い人を助ける」というイメージが書かれていました。けれども、体験を通じて、それが「支える仕事」「サポートする仕事」へと具体的にイメージが変化していました。

緊張した面持ちで訪れる 事前オリエンテーション

くすのき園では、中学生の職場体験を1回に3人、3日間受入れています。体験の1週間前になると、生徒たちが事前オリエンテーションにやってきます。利用者が作業しているところを見学してから、生徒たちは紀伊さんと30～40分ほど話します。

生徒から受け取るプロフィール票には「好きなこと」「得意なこと」などが書かれています。生徒たちからは、緊張した面持ちで「お昼はどうしたらよいですか?」といった質問をしてきます。一方、「どうしてここを体験先に選んだか?」「どんなことを学びたいか?」といったことは事前オリエンテーションの会話の中で把握していきます。聞いてみると、「人と関わる仕事をしてみたいから…」「本当は保育

園に行きたかったけど、あつちは人数が多く、こちらにした」「親が福祉のしごとをしているので…」などです。小さい頃にお祭りできすのき園に来たことのある生徒もいました。

事前オリエンテーションの終わりには、「この仕事はどんな仕事だと思いますか?」というシートを渡し、「職場体験前の考え」を当日までに書いてきてもらいました。

体験の初日、生徒たちの緊張を ほぐしてくれるのは利用者

いよいよ職場体験の初日。1日の体験時間は9～15時です。朝礼で中学生3人を利用者たちが温かく迎えます。利用者にはあらかじめ「きっと緊張しているから頼むよ～」と声をかけてあります。紀伊さんは「利用者はありのままを見せてくれれば。もともと子どもが好きな利用者が多く、特に若い世代の利用者や女性の利用者は、生徒に『どこから来たの?』『今、何年生?』とどんどん質問してくれるので、自然と緊張もほぐれていく」と話します。

そんな利用者と接することで、生徒からは「利用者さんの強みは、コミュニケーションの力だと思う」という感想が出てきました。そう思う理由は、「たくさん話しかけてくれたから」「誰とでも仲良く話ができるのがよいなと思った」とあげられています。

そして、徐々に利用者の輪に溶け込み、3人の中学生はそれぞれ3つの作業に分かれて入ります。3人は3日間で作業を3つともすべて体験するようにしています。紀伊さんは、「初日から分かれて入ってもらうのは、生徒同士で固まってしまうと、利用者の中に入り利用者と一緒に作業してもらいたいから」と話します。その分、昼休みは利用者も職



大田区立くすのき園
支援係長 紀伊良彦さん

員もいないスペースで息抜きができるようにしています。

体験期間中、「縫製」「木工」「軽作業」の3つの作業のそれぞれのリーダー職員に生徒たちを任せます。リーダーたちとは、体験の目的を「利用者の実際の姿を知ってもらおう」「できるだけ利用者とのコミュニケーションをとってもらおう」「施設の意義を感じてもらおう」と確認合っています。

「利用者と一緒に作業する」。紀伊さんは「『作業』は利用者とのかわりをつくるためのツール。利用者を助けるのではなく、利用者と一緒に成長するというかわりが理解してもらえ」と指摘します。

体験を通じて得られた 「心の動き」を言葉に

体験中、毎日10分ほどふりかえりを行います。事前オリエンテーションの際、生徒たちには「1日1つは質問しよう」と促しています。シートでは、ツール例②の「職員のプロの姿」「利用者の強み・パワー」「自分の成長・いいところ」を見つけて意識しながら体験に臨むことができるようにしています。

事前オリエンテーションのときに書いてもらった以外の残りのシートは2日目が終わった後に家で記入してもらい、最終日の朝に受け取り、紀伊さんがひとつひとつにコメントを書きます。そして、最後に30～40分間のふりかえりを行います。

紀伊さんは「作業では、まずはそれを『楽しい』と感じてもらいたい。そうした中で感じる『心の動き』を生徒さんが言葉にできるとよい。それが出てくると、『ああ、伝わったんだな』とうれしくなる」と話します。もちろん、その「心の動き」が言葉になるには、体験中の場面をふり返りながら、「そうそう、いっぱいコミュニケーションしていたよね」といったように、気づきを促すことも大切になります。

障がいのある人との関わりから 得られた成長

「職場」体験ではありますが、この体験は障がいのある人との関わりを通じて得られる人としての成長も大きな学びのひとつです。

紀伊さんは「利用者と一緒に作業する中学生は、利用者が自分たちよりも上手に作業ができることに驚かされる。そういった場面で『みんなより得意なことがあるよね』と話しかけると、『どこに障がいがあるのかわからない』という反応が返ってくる」と話します。また、廊下に貼りだしてある『木工作業の紹介』というポスター。これは、障がいのある利用者がイラストを描いていると生徒たちに教えると、驚かれます。

そんな体験を通じて、生徒から出てきたコメント

は「偏見がなくなった。障がいを持っているからできないわけじゃなく、得意不得意があるだけだから」というもの。その理解があるからこそ、前述のように、この仕事は弱い人を助けるのではなく、ともに支え合い成長していく仕事なんだということが具体的に理解されています。



文字もイラストも
利用者によるポスター

職場体験という機会を さらに活かして

紀伊さんは、生徒たちに「体験中、若手職員に『なぜこの仕事をしているのですか?』『やりがいは何ですか?』を尋ねてみてね」とお願いしています。そして、若手職員は中学生から聞かれ、自分の仕事をわかりやすく説明しなければなりません。そのことは若手職員にとっても力をつける機会にもなっています。

また、くすのき園では、職場体験を終えた生徒ひとりひとりに「くすのき園での作業頑張ったで賞」という修了証を渡しています。体験の終了後、生徒たちはくすのき園にお礼状を届けに来てくれます。紀伊さんは「それが本当に短い時間なのは残念。利用者は生徒たちのことをちゃんと覚えている。学校の事後学習では模造紙で発表していると聞か、見てみたいと思うし、もう少し事後に交流ができるようになるとよいと思う」と話します。



「これ、僕が作ったんだ」と気さくに木工作品を見せてくれる利用者

ツールをダウンロードしてみよう！

各ツールをダウンロードできます。

<https://www.tcsw.tvac.or.jp/youth/tsutaetai/03.html>



東京都社会福祉協議会 福祉の魅力可視化プロジェクト委員

	氏名	所属	備考
1	村井 祐一	田園調布学園大学 人間福祉学部 学部長・社会福祉学科 教授	学識経験者
2	野村 博之	(社福)南山会 特別養護老人ホーム 「喜多見ホーム」施設長	福祉施設・事業所(高齢) 高齢者福祉施設協議会総務委員長 せたがや福祉・介護普及有志の会
3	前田 智孝	(社福)聡香会 「きたしば保育園」園長	福祉施設・事業所(保育) 保育部会総務委員会
4	茂木 貴之	(社福)恩賜財団東京都同胞援護会 障害者支援施設「さやま園」主任	福祉施設・事業所(障害) 知的発達障害部会「利用者支援研究会」
5	八田 一彦 ※～平成30年12月	昭島市社会福祉協議会 総務課生活支援係 係長	区市町村社会福祉協議会
6	田丸 精彦	NPO法人 VCAS 理事長	NPO

<臨時委員>

	氏名	所属
1	坂井 祐	(社福)大三島育徳会 高齢者支援局 施設サービス部 部長
2	山本 伸秀	(社福)大三島育徳会 特別養護老人ホーム「博水の郷」介護課課長代理
3	鈴木 佑輔	(社福)世田谷ボランティア協会 ボランティア・市民活動推進部

<事務局>

東京都社会福祉協議会 総務部 主幹 森 純一
 総務部 企画担当 主任 永松 智美
 総務部 企画担当 主事 森 直美
 総務部 企画担当 橋本 知成美

(オブザーバー)

東京都福祉人材センター 人材対策推進室 主事 石川 詩乃
 東京ボランティア・市民活動センター 主事 谷口 陽香

発行日 平成31年3月 初版

令和 2年3月 初版第2刷

東京都社会福祉協議会 福祉の魅力可視化プロジェクト



〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1

電話03-3268-7171 FAX 03-3268-7433



本書は、社会福祉法人東京都共同募金会の配分金により作成いたしました。